

GGGI 2017 日本の順位は 114 位 (144 か国中)

その位置をどのように捉えるか。

<http://reports.weforum.org/global-gender-gap-report-2017/>

GGGI (Global Gender Gap Index=世界男女格差指数) とは

世界経済フォーラム (本部ジュネーブの民間団体) は、世界の経済的成長にとって、格差解消、中でも性別格差の解消が重要な役割を持つとの認識で、2006 年に世界ジェンダーギャップ指数の公表を始めた。

これは、男女の格差を経済的分野、政治的分野、教育の分野、そして健康に生きるという分野の 4 つの分野に分けて、それぞれ男女の格差を設定する項目をあげ、女性 vs 男性 (男性 100 に対する女性の割合) という項目ごとに、男女格差の数値を計算している。もし女性=男性、男女平等が実現したらその数値は 1 となる。各項目の数値が 1 に近いほうが「男女平等度が高い」という目安である。

さらにその数値に国別順位をつけているが、これは順位競争を促すというより、順位向上に向けて、それぞれの改善努力を促すためとされている。

データの出典と各分野の設定について

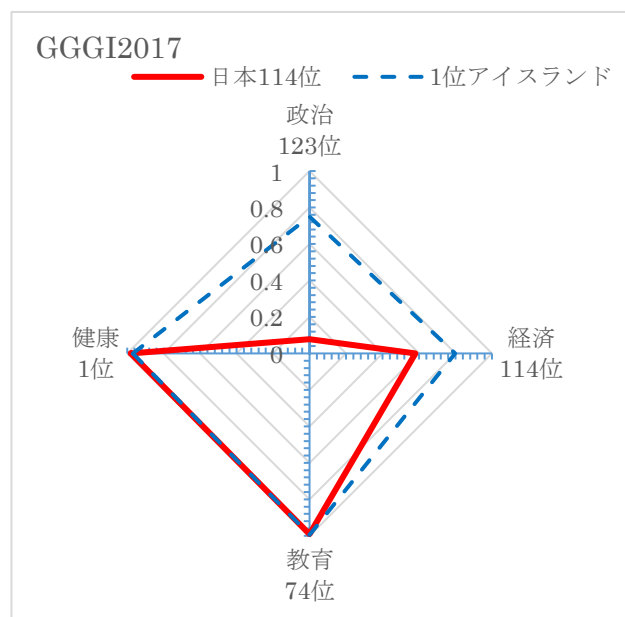
そのデータは関係各国で使われており、公表されているものを使用する。

例えば、ILO, UNDP, WHO など国際機関が公表している数値のほか、所得に関する数値などでフォーラムが独自に計算するものもある。

1. 経済=関わりと機会との立場から→給料、就労状況、地位 (ポスト)
2. 教育=どこまで受けるか→基礎教育の普及と女性に対する高等教育水準
3. 政治力=政策決定に代表としての参加状況→議員数など
4. 健康と生存=寿命とジェンダーなど→出生率や寿命に関するもの

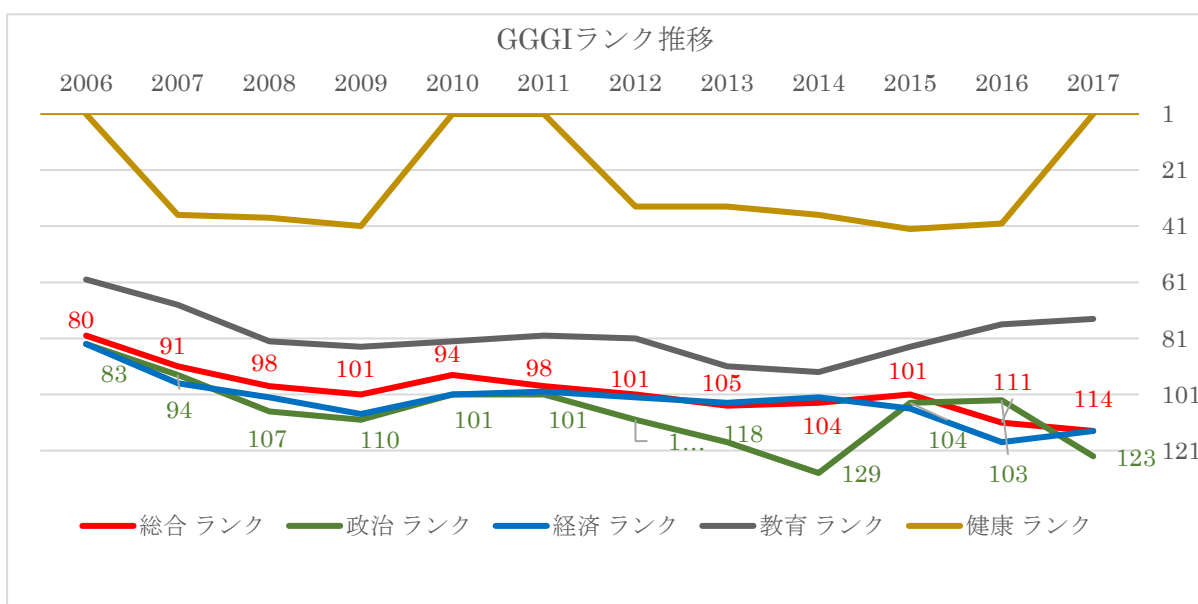
2017 年の日本の状況

分野	2017 年	
	ギャップ指数	順位
政治	0.078	123 位
経済	0.580	114 位
教育	0.991	74 位
健康	0.980	1 位
総合	0.657	114 位



日本の推移

年	調査 国数	総合		政治		経済		教育		健康	
		ランク	指数	ランク	指数	ランク	指数	ランク	指数	ランク	指数
2017	144	114	0.657	123	0.078	114	0.580	74	0.991	1	0.980
2016	144	111	0.660	103	0.103	118	0.569	76	0.990	40	0.979
2015	145	101	0.670	104	0.103	106	0.611	84	0.988	42	0.979
2014	142	104	0.658	129	0.058	102	0.618	93	0.978	37	0.979
2013	136	105	0.650	118	0.060	104	0.584	91	0.976	34	0.979
2012	135	101	0.653	110	0.070	102	0.576	81	0.987	34	0.979
2011	135	98	0.651	101	0.072	100	0.567	80	0.986	1	0.980
2010	134	94	0.652	101	0.072	101	0.572	82	0.986	1	0.980
2009	134	101	0.645	110	0.065	108	0.550	84	0.985	41	0.979
2008	130	98	0.643	107	0.065	102	0.544	82	0.985	38	0.979
2007	128	91	0.645	94	0.067	97	0.549	69	0.986	37	0.979
2006	115	80	0.645	83	0.067	83	0.545	60	0.986	1	0.980



2017年 世界のジェンダーギャップ指数が 後退!!

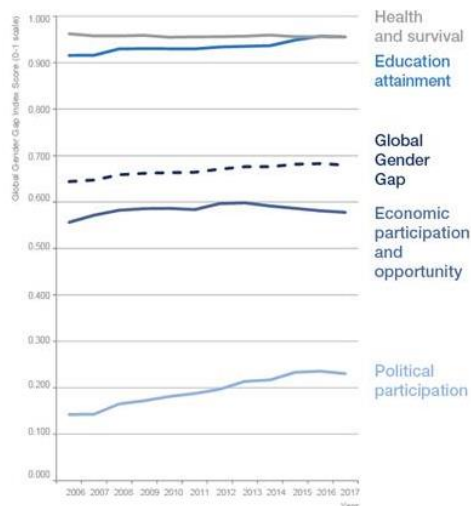
2017年のGGGI（男女格差指数）は、**0.68**（男性を100として68%）となり、2006年の発表開始以来、初の後退を示すものとなった。

2015年は68.1% (0.681)、2016年は68.3% (0.683)、そして2017年は68.0% (0.680)となった。その背景には、4つの要素のそれぞれに成長の鈍化がみられ、特に就業の場（所得）や政治の代表（議員）での平等度の減少（格差増加）が、後退への拍車をかけたとの見方がある。

そうした中で・・・フランスやカナダは、歩幅を広げて前進し、アイスランドは依然としてトップの座を確保してい



Progress on closing the Global Gender Gap



る。だが米国は、10年前の23位から49位に転落し、日本は80位から114位となった。トップ10＝アイスランド、ノルウェー、フィンランド、ルワンダ、スウェーデン、ニカラガ、スロバニア、アイルランド、ニュージーランド、フィリピンが並び、そのトップ10の平均指数＝0.816。日本は0.657で114位（前年は0.660）である。

世界経済フォーラムは、144ヶ国の半数以上が過去12カ月で数値の改善が見られたと述べ、さらに「時代は資本優先主義から能力優先主義に移行している。国、或は企業の競争力は、開発力（知的能力）で決まる時代になっている」としているのだが。

G20のなかでフランスは11位、次いでドイツの12位、英国の15位、カナダが16位。南アフリカ19位。ほかにアルゼンチン34位、米国は49位。

順位の低い国では、中国が100位、インドが108位、日本が114位、韓国が118位、トルコが131位、サウジアラビア138位、最低の144位はイエメンで指数は0.516。

【Global rankings, 2017】



rank	SCORE
1. Iceland	0.878
2. Norway	0.830
3. Finland	0.823
4. Rwanda	0.822
5. Sweden	0.816
6. Nicaragua	0.814
7. Slovenia	0.805
8. Ireland	0.794
9. New Zealand	0.791
10. Philippines	0.790

国名	総合		政治		経済		教育		健康	
	ランク	指数	ランク	指数	ランク	指数	ランク	指数	ランク	指数
Iceland アイスランド	1	0.878	1	0.750	14	0.798	57	0.995	114	0.969
Norway ノルウェー	2	0.830	4	0.530	8	0.816	38	0.999	80	0.973
Finland フィンランド	3	0.823	5	0.519	16	0.793	1	1	46	0.978
Rwanda ルワンダ	4	0.822	3	0.539	7	0.820	113	0.951	1	0.980
Sweden スウェーデン	5	0.816	8	0.486	12	0.809	37	0.999	112	0.969
Nicaragua ニカラグア	6	0.814	2	0.576	54	0.702	34	1	1	0.980
Slovenia スロベニア	7	0.805	11	0.440	13	0.801	1	1	1	0.980
Ireland アイルランド	8	0.794	6	0.493	50	0.710	1	1	96	0.971
New Zealand ニュージーランド	9	0.791	12	0.430	23	0.768	43	0.998	115	0.969
Philippines フィリピン	10	0.790	13	0.416	25	0.764	1	1	36	0.979

各カテゴリーで見ると・・・

教育の分野では、前回より3カ国増えて27ヶ国が、健康の分野では前回より4カ国減で34ヶ国が平等度を前進させ、平等数値（1）に近づいた。教育、健康の双方で改善したのは6ヶ国のみ。

政治・経済の分野で平等に接近したのは6ヶ国。13カ国は80%以上の接近を果たした。

政治の分野はどこもジェンダーギャップ解消には遠いが、ただ一つアイスランドのみが70%以上のラインを達成し、4カ国が50%の壁を越えた。しかし、34カ国が10%以下にとどまっており、日本は、7.8%である。

地域別予測と状況・・・

・西ヨーロッパ(20ヶ国)＝ジェンダーギャップ25%以上という最高の数値を確保しており、上位5カ国の中に4カ国(アイスランド、ノルウェー、フィンランド、スウェーデン)がノルディック諸国として常に顔を出している。この地域の最低は、ギリシャ(78位)、イタリア(82位)、キプロス(92位)、マルタ(93位)。2017年は、20カ国中、9カ国が上昇、11カ国が減少した。

・北アメリカ(2ヶ国)＝ジェンダーギャップ28%。カナダ(16位)、合衆国(49位)だが、スコアでは70%以上を保持。

・東ヨーロッパと中央アジア(26ヶ国)＝平均で71%。域内では3ヶ国(スロバニア(7)、ブルガリア(18)、ラトビア(20))が上位20位以内。一方下の方ではアルメニア(97位)、アゼルバイジャン(98位)、ハンガリー(103位)で、昨年比で上昇したのは18ヶ国、下降したのは8ヶ国。

・ラテン米・カリブ諸国(24ヶ国)＝30%以上の格差が残る地域。この調査開始以来、最速で成長した上位10ヶ国の中に2カ国(ニカラグア(6位)、ボリビア(17位))がある。ブラジルは全体のランクは90位だが、教育の分野で1位(1.00)を達成している。下位で見ると、パラグアイ(96位)、グアテマラ(110位)。24か国中上昇したのが18ヶ国。

・東アジア・太平洋地域(18ヶ国)＝ジェンダーギャップの平均は68%。NZ(9位)とフィリピン(10位)の2カ国がトップ10入りだが、多数の国と地域は経済の分野で格差が大きい。中国100位、日本114位、韓国118位で、努力が必要との注記があった。

・サハラ以南のアフリカ(30ヶ国)＝他のどの地域よりジェンダーギャップの格差の幅がひろく、ルワンダ(4位)、ナミビア(13位)、南アフリカ(19位)と上位20カ国に入っている国もあるが、下位で見るとマリ(139位)、チャド(141位)となっている。30か国中、13カ国は昨年と比べて上昇したが、下降を示した国は17ヶ国ある。

・南アジア(7ヶ国)＝ジェンダーギャップ指数の平均は34%。バングラデシュ(47位)が唯一100位以内にとどまっており、インド(108位)、パキスタン(143位)。3カ国が前進し、4カ国は後退した。

・中東及び北アフリカ(17カ国)＝地域としては最大の男女格差のある国家群である。アラブ首長国連邦(120位)、バーレーン(126位)であり、政治分野での世界最低5カ国の中に、クウェート(129位)、レバノン(137位)、カタール(130位)、イエメン(144位)がいる。だが、この中の11ヶ国では、改善を見せた。

男女の平等が実現するまでの歳月予想

昨年は、全ての指数で平等を実現するのにあと83年と予想したが、今回のデータから、実現は、次の世紀(2100年)になると予想したい。(2017+83=2100) 最もチャレンジが必要なのは、経済分野と健康の分野ではないか。

・経済の分野では、進化の引き戻しも予想されるなどから、ジェンダー格差解消には217年

を必要とするかもしれない。2008年に設定した指標では最低評価であり、世界での対話を通してジェンダー平等実現への速度を上げることを目指す必要があり、2018年に向けて公私の協力により理想的なモデル3カ国を取り上げることが検討中だ。

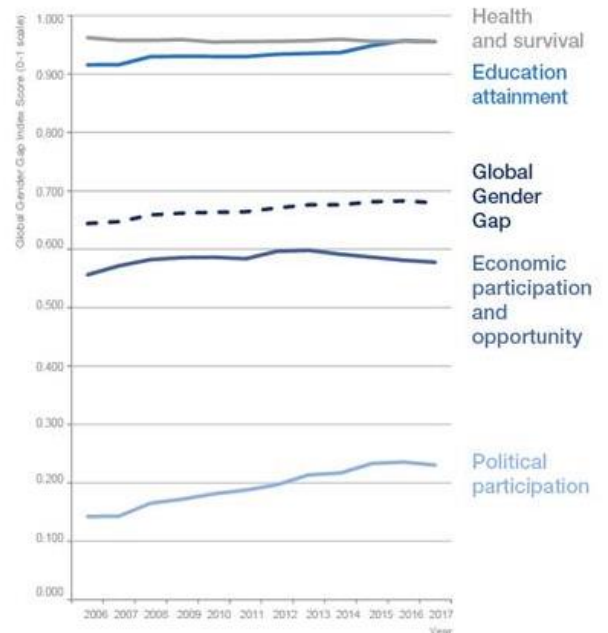
・健康に関する項目は定義を定めにくい。格差を最小にするための進展は、下降傾向を示しながらも、行きつ戻りつしてきた。ジェンダーギャップは今、特定の国、特に中国やインドにあつては、2006年当時より大きくなっている。

・政治の分野は、ジェンダーギャップの幅が広く、例え最高の進歩を見せたとしても、解決には今後99年必要とするだろう。

・教育でのジェンダーギャップ解消は、これだけが現在予測できることだが、次の13年で実現可能である。



Progress on closing the Global Gender Gap



すべての地域で、11年前よりジェンダーギャップの幅は縮小しているが、進歩は失速しており、平等の実現には、西欧は61年、南アジアは62年、ラ米・カリブ諸国は79年、サハラ以南のアフリカで102年、東欧と中央アジアで128年、中東と北アフリカで157年、東アジア・太平洋地域で161年、北米で168年と予測されている。

平等にむけての経済の役割りと実情

多くの研究によれば、ジェンダー格差の改善は大きな経済効果をもたらすが、その状況は、経済事情の相違や背景で異なっている。

最近の研究によれば、ジェンダー平等の実現に伴う経済効果は、大きく、英国で2500億ドル、米国で1兆7500億ドル、日本で5500億ドル、フランスで3200億ドル、ドイツで3100億ドル、それぞれGDPを引き上げるといふ。

他の最近の計算によると、ジェンダー平等の実現により中国では、GDPを2.5兆ドル増やし、全世界規模では、もし経済での平等が実現すれば、2500年までにGDPを5.3兆円増やすとの見積もりがある。